

ポストコロナ社会におけるメタバース語学留学の可能性と実践

山田 知沙

技術企画課

1 はじめに

ポストコロナ社会において、教育研究業界においてもダイバーシティや DX がますます推進されている。山口大学の「明日の山口大学ビジョン 2030」においても、ダイバーシティビジョンの中に多様なニーズへの支援が、また、経営ビジョンの中に、教育研究支援機能の充実及び地域貢献促進のための DX 推進が謳われている。2021 年 10 月から、山口大学工学部では、工学教育研究センターとイギリス・シェフィールド大学附属語学学校 (English Language Teaching Centre, The University of Sheffield) との協働により、メタバース語学留学を導入し、2022 年 1 月から実施している。これは、専用のヘッドセット(導入機材:Oculus Quest2)を使用した Virtual Reality (仮想現実)を活用したオンライン語学留学のことであり、コロナ禍で海外渡航の中止や制限のかかる中、仮想現実においていつでも海外へ留学することができるだけでなく、画面越しのオンライン留学では叶えられなかった臨場感や没入感による集中力や理解力の向上に繋がると思い、導入したものである。その後、With コロナを経て、ポストコロナ社会においては、メタバース語学留学の「仮想現実においてコントローラーを手にとって操作し、身体を動かしながら仮想空間内で体験学習を通じた交流が実現可能であり、対面でのコミュニケーション能力の向上が期待でき、実践的な英語でのコミュニケーション能力が定着しやすい」という特性を生かし、新たな視点を持ったシェフィールド大学語学学校とのメタバース留学の実践事例について報告を行う。



図 1. シェフィールド大学(イギリス)

2 学びの多様性の尊重した開かれた学びの場の提供～メタバース語学留学の定期的実施～

メタバース語学留学は、コロナ禍での学生への現地留学への代替措置として導入したものであるが、ポストコロナ社会においては、山口大学工学部の提供する海外語学研修のひとつとして導入し、学びの多様性を尊重し、より開かれた学びの環境を提供するため、定期的 to 実施することとした。実施回数は年間3回であり、実施時期は4月から6月、10月から12月及び1月から3月である。理由はふたつある。ひとつめは、失敗から学ぶ環境づくりを提供出来るからだ。メタバース語学留学においては、学習者はアバターを選択し、仮想空間でコミュニケーションをとれることに着目し、失敗を恐れたり、英語を話したりすることへの苦手意識や抵抗感を少なからず軽減できる。そのため、英語を発言することへの自信やモチベーションの維持及び意欲向上につながると考えた。ふたつめは、学習者の多様性を尊重した新たな学びの場を提供出来ると思ったからだ。例え



図 2. メタバース留学の様子



図 3. 貸出用ヘッドセット

ば、現地留学には授業料だけでなく、航空運賃やホームステイ費用等の移動費や滞在費が必要となるが、メタバース語学留学の場合は、授業料のみの負担となり、その金額も現地留学よりも安価であるため、経済的理由により現地留学への敷居が高くなっている学生に対して留学機会の間口が広まり、その負担を大きく軽減できる。もちろん、現地で異文化に触れ、現地の人々と交流することでしか得られない知見や経験値というものもあるだろう。それを日常的に体感しながら日々学ぶのが海外留学の醍醐味であることは否めないが、先に挙げた例だけでなく、様々な理由や取り巻く環境によって、叶えられない「留学」を、学ぶ意欲さえあれば実現でき、海外留学がより身近な存在となると考えた。工学教育研究センターでは、この教育機会を有効活用するために、専用のヘッドセットは大変高価であるとともに、教育現場への利活用はあまり進んでいないという課題をクリアするため、図 3 に示すように、貸し出し用のヘッドセットを 6 台購入し、学びの場やチャンスを最大限に広げ、その基盤を整えている。

3 不安やストレスの軽減～渡航前オリエンテーションの導入やオープンキャンパスでの実施～

2022 年 8 月より、一部ではあるが、受入再開可能である派遣先への海外研修を再開した。その派遣先のひとつとなるイギリス・シェフィールド大学附属語学学校へ短期語学研修に参加する学生に対して、メタバース語学留学を渡航前オリエンテーションとして利用することとした。参加した学生によると、予めシェフィールドの街並みや学校周辺の様子、学内の建物などの仮想現実内ツアーを体験できるため、現地の様子を事前にある程度認知することができ、実際に渡航した時の安心感が大きく、また、渡航前にモチベーションを最大限まで高めることができたという意見があったと同時に、特に、初めて海外渡航する学生には不安やストレスが軽減されるというメリットがあったようだ。

また、オープンキャンパスでの高校生とその保護者に対してメタバース語学留学を体験してもらったイベントを実施した。メタバース語学留学は、現地の英語教員によるメタバースでの英語レッスンの後、シェフィールドやロンドンなど、イギリス国内ツアーで構成され、高校生が仮想現実内で見ている世界を、保護者の方にはミラーリングで見てもらい、その世界観を親子で体験していただくことができた。

4 まとめ

教育研究業界におけるダイバーシティや DX が推進される中、山口大学工学部におけるポストコロナ社会におけるメタバース語学留学の可能性と実践事例について報告した。メタバース語学留学は、学びの多様性を尊重でき、新たな学びの創造を発見し、開かれた学びの場を提供できた。また、参加学生のフィードバックから、ものづくりに関わる工学系の学生として VR という技術に触れ、それぞれの研究分野でメタバースの技術を応用することに創造力が働き、新たなリソースやサービスの創造を考える機会となったようだ。

なお、本取組は、「山口大学工学教育ワークショップ 2022」(学内オンライン)及び The16th International Regional (Asia) ISBS Neuroscience and Biological Psychiatry “Stress and Behavior” Conference (国際学会オンライン)において口頭発表を行った。



図 4. 渡航前オリエンテーションの様子



図 5. オープンキャンパスでの実施



図 6. ミラーリングした映像